

日本キリスト教会 大阪北教会

2018年2月11(日)聖日礼拝説教 牧師 森田幸男

聖書 マタイによる福音書5章13節～16節

「05:13 あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。05:14 あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。05:15 また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。05:16 そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

説教『あなたがたは、地の塩、世の光である。』

●北陸は連日豪雪に見舞われています。それに比べると大阪は2月とはいえ、温暖ですね。今日もこのように共に礼拝できますことを心から感謝いたしたく思います。私は21歳から27歳まで6年間、東京の神学校に行きました。同窓生は4人で、その一人は中村静郎牧師です。私より3歳若く74歳です。この数年来腎臓を患い、3～4時間毎に自分で透析をして過ごしています。北陸線福井市駅から10分位の所にある福井宝永教会の牧師です。木曜日にお見舞いの電話をしました。牧師館は教会から大分離れた所にありますので、教会の方は、雪は積もり放題で、教会の雪かきは業者に頼まないとともに無理だと言っていました。今日の日曜日、無事に礼拝を守れているかどうか気がかりです。

●先々週の火曜日には韓国・東水原教会の若い兄弟姉妹30人の来訪があり、金曜日には中国の基督者姉妹2人の訪問を受けたことは先週お話ししました。今週は7日の炊き出し・祈禱会を挟んで、数人の人達から長い電話相談がありました。40代と50代と60代と70代の方々と、いずれも深刻な内容でした。今振り返って整理してみると、共通点があります。病気がある事、独り身である事、肉親親戚はいるけれども孤立している事、いじめに合っている事、経済的にゆとりがなく、むしろ行き詰まっている事などです。一人の人は、「もう死んでもいいですか」と、ドキッとするようなことを漏らされます。その人は教会にも行ったことはあると言われ、「イエス様」と云う表現も使われましたので、「その時が来れば、イエス様が迎えに来てくださいますから、自分で死ぬことは考えない方がいいですよ」と話し、「どうにもしんどくなったらまたお電話ください」と言って電話を切りました。

●今日は日曜学校でも大人と同じ聖書で話しました。そして子供たちに、「みんな死にたいと思ったことある？」と聞きましたら、「先生、そんなこと当たり前やん。人間やから」と6年生の女の子が答えました。「そう…、何で死にたくなっただん？」と突っ込みますと、「それは言われへん」と言います。「それやったら、どうして、そこを乗り越えられたの？」と聞きますと、「ともだち！」と答えました。

「良い友達がいる、よかったね」と言いますと、「うん」と、うなずきました。大人も子供も、生きて行くことは、しんどい事なのだと、今更のように子供に教えられました。

●さて、今日のイエス様の御言葉は、『山上の説教』の一部ですが、イエス様は、16節で「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである」と仰っています。だから、今紹介しました日曜学校の生徒の場合はお友達が光となってくれたのです。ここでイエス様は、「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」と言われ、続いて、「人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである」と仰っています。このお言葉の流れは、しばしば申し上げます「並行法」という文章表現です。前で言ったことと同じ内容を、次の行では表現を換えて言うのです。「あなたがたの光」と「あなたがたの立派な行ない」は、同じ内容を指しているのです。

●ところでこの「あなたがたの立派な行い」という表現、訳語ですが、以前の口語訳聖書では、「あなたがたのよい行いを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」となっていました。今年の12月には、私たちが現在用いております『新共同訳聖書』の改訂版が『聖書協会共同訳』として刊行されると聞いておりますが、この箇所がどのように訳されるか興味深いものがあります。この「立派な」と訳され、「よい」と訳されている原語のギリシャ語は、「カロス」という言葉です。この「カロス」は「立派な」と訳し「よい」と訳しても、単純に「誤訳」とは言えませんが、以前にも申したことがあります。英語なら”charming”が良いと私は思っています。「魅力的な」です。辞典では「慰めに満ちた」という訳語もあります。「良くて、立派だけれども」、鼻につく善行というものがあります。良くて、立派で、”charming”なのが、「カロス」なのです。

●「あなたがたの立派な行ないを見て」と訳されると、どうしても、焦点は「人間」に合わさります。然し、イエス様は、「人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである」と仰っています。人々がその人のカロスな行ない・魅力的な立ち居振る舞い・生活を見て、「あなたがたの天の父をあがめるようになるためである」と仰っています。その人の慰め深さは、その人から出て来たものではなく、神様御自身に満ち満ちている慰めが、その人の人となり、その人の生活、立ち居振る舞いに、溢れ出て、輝き出ている。ですから当の本人も、自らの輝きを意識しないで、周りの人々に慰めをもたらす、神様をほめ称えないではおられなくさせる姿、それが「カロスな振る舞い」なのです。

●今日の主イエス様の御言葉は、『山上の説教』の一部分だということは上で申し上げました。「七福」とも「八福」とも言われる『山上の説教』の冒頭の3節から12節にある「幸いなるかな」「幸いである」という御言葉に続くところのものであります。つまり、今日の御言葉は「幸いなるもの者」に対

する御言葉なのです。「幸い」と言う字には、幸福の「幸」の字が当てられています。が、「幸い」と「幸福」「幸せ」とは意味・内容が違います。先週の御言葉、マタイによる福音書10章26節～31節で聞きましたように、私たちの霊と肉に関わる一切に対しての神様の絶対の、細やかな、御顧みの許に、今も・これからも・常に・永久にあることを知らされた者を「幸いな者」と言い、その事を、感謝し、信じている者、信じる事を許された者が「幸いな者」なのです。

●今日の御言葉の直前の10節以下にこのようなイエス様のお言葉があります。「義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられるとき、あなたがたは幸いである。喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。」とても幸せとは言えないような目にあっても、崩れないのが「幸い」なのです。

●「幸いな人」とは、イエス様の為に「ののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられる」人の事なのです。父なる神様と一体であられる主イエス様の苦しみに与る者とされている者が「幸いな者」であって、この幸いを崩せるものはこの世には存在しないのです。先週聞いたイエス様の御言葉はこうでした。マタイによる福音書10章28節～31節です。「体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい。二羽の雀が一アサリオンで売られているではないか。だがその一羽さえ、あなたがたの父のお許しがなければ、地に落ちることはない。あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。」髪の毛一本までも数えて下さる父なる神様の御顧みの中に今も永久までもおかれ、守られている事が「幸い」なのです。

◆人間には、表の生活と裏の生活がありますね。内面と外面と言ってもよいでしょうか。しかし今日の御言葉は、隠れた面でも、表の面でも、他者の幸いのために生きる生活、「地の塩」「世の光」としての生活なのです。それは、人々の幸いを願い、人々に幸いをもたらす生活です。顧み給う神様の現臨を、十字架と復活の主イエス様の現臨を髣髴とさせるような生活です。それが16節の御言葉です。

「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

◆先ほど、私が神学校に行った時のことを少し触れました。21歳の春のことです。その時、母教会には主任の牧師さんと神学校を卒業されたばかりの新卒の若い伝道師さんがいました。私はこの若い伝道師さんとの出会いがなければ、今の自分はなかったとさえ思っている「恩師」なのですが、今日のイエス様の御言葉「あなたがたのよい行いを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい」と、この若い伝道師さんの姿が重なるのです。この人には自分を誇るというところがありませ

ん。それでいて、その言動、生活は、私たちに慰めを与え、励ましとなるのです。その姿は「立派」とか「よい」では足りないですね。正に「祝された生活」〔祝された人〕というべきものです。天来の生活です。「立派」とか「よい」では、「人間」に焦点が合わさります。然し、焦点は、その人ではなく、その人が頼みとし、一切をお委ねして「幸い」を与えられているその源、その人に「幸い」をもたらしておられる神様その方へと私たちの視線と思いを、導くものです。その人を見ていると、天の父なる神様をあがめないではおられなくさせられるところ人が「祝された幸いな人」なのです。

◆私たちの日々は、霊肉共に神様の御願みの許にあります。私たちの霊・肉に関わる一切合切は、御独り子・主イエス様をさえ惜しまず賜る、父なる神様の永遠の御願みの許にあります。先週与えられた御言葉はマタイ福音書10章29節以下の御言葉でした。「二羽の雀が一アサリオンで売られているではないか。だがその一羽さえ、あなたがたの天の父のお許しがなければ、地に落ちることはない。あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている。だから、恐れるな。あなたがたは、たくさんの雀よりもはるかにまさっている。」私たちが与かっている幸いに比肩できるものはありません。

◆私達大阪北教会に与えられた今年の標語聖句は使徒パウロのコリント前書9章23節の言葉です。「福音のためなら、わたしはどんなことでもします。それは私が福音に共にあずかる者となるためです。」これは、神様の祝福に与った者すべての思いを代弁しています。イエス様に満ち溢れている父なる神様の恵みに与る以外のどこにも救いはありません。

◆最後に、もう一度イエス様の御言葉をお聞きしましょう。「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。」このイエス様の御言葉を聞く時、私たちは、強い自己反省を迫られます。比べるべきものない幸いに与かることを許されている者が、それを、ただ憐れみ、恩寵として受け止めず、自分自身の何かを誇るようなことになれば、元も子もありません。表も裏もない、地の塩・世の光として、幸いに与かっている者として、ただ福音のために、日々歩ませていただくではありませんか。

◆お祈りいたします。

憐れみ深い主イエス・キリストの父なる神様。

今更のように、あなたの御恵み、御赦しを覚え、心から感謝いたします。ただ滅びにのみふさわしいわたしたちが、ただあなたの御憐れみの故に、主イエス様の御執り成しの故に、比べるべきものなき幸いに与かることを許されていることを覚え、心から感謝いたします。ふつつかな者達ではありますが、このようなもの者を見捨て給わず、あなたの慈愛に輝ける祝福と御救いを証しする者達として下さい。この祈りを、イエス様の聖名を通し、御前にお捧げいたします。アーメン。